



火の柱

Friends of Jesus 2023.3 第 734 号

イエスの友五綱領

- ①イエスにありて敬虔なること
- ②貧しき者の友となりて労働を愛すること
- ③世界平和のため努力すること
- ④純潔なる生活を尊ぶこと
- ⑤社会奉仕を旨とすること

イエスの友会は、上の五綱領を、生き方の基盤としているキリスト者と賛同者の群れです。(結成1921年10月5日)

特集『恐れるな。語り続けよ。』1p 「敵を怖れず、祝福し、福音を伝えよ」 鈴木武仁 2p 「神を信じるか信じないかの戦い」 菅野直基 「恐れず、見る視点を変えよう！」 李善恵 3p 「小さな命のために」 辻岡 健象牧師 東海林昭雄、松沢資料館の記憶 鈴木武仁 4p 「春期聖修会報告」、「98回夏期聖修会スケジュール」、「会計報告」、「会員状況」

敵を怖れず祝福し、福音を伝えよ

イエスの友会会長 鈴木武仁



イスラエルの民は神の戒めを守らず懲らしめを受けざるを得ませんでした。彼らはバビロン軍によって国を滅ぼされ、故郷エルサレムを追われて、言葉も文化も異なる地へ捕らわれの身となったのでした。いつ故郷に戻るかもわからない危機的状況が襲ってきたのです。このとき、神は預言者エレミヤを通して慰めを彼らに告げました。

1 置かれた場所で咲きなさい わたしたちはイエスの大宣教命令を受け、それぞれ異なった場所に遣わされています。わたしたち日本人のキリスト者は人口の1%程度で、マイノリティーとして生きています。多くの教団、教派、教会では少子高齢化が激しく教会員の減少、教職者不足が問題となっています。しかも予期もしなかった二〇一九年以降のコロナによる感染症の蔓延、ウクライナとロシアの抗争、トルコ・シリア地域でも巨大地震による被害などは「災い」としか思えません。にもかかわらずわたしたちはイスラエルの民のように異教の土地であっても遣わされた場所で咲き続けなければならぬ、言葉を交わせば、神から託された使命のために証しして生き続けようと言うことです。ところが神の民は偽預言者ハナニヤの惑わしの声を聞きます。「まもなくこれらの災いから解放される、二年以内にバビロンの都からエルサレムに戻される」と言うのです。この惑わしを語った預

言者はまもなく死んでしまいました(エレ28・17)。神が立てた計画は、「災いの計画ではなく、将来と希望を与える平和の計画」で、バビロンで七十年とどまつた後、「捕囚として追い出した元の場所に連れ戻す」と約束されたのでした(29・14)。わたしたちが置かれる場所は、時には苦しみをもたらし、辛さを感じる時もありますが、それは決して災いの計画ではなく、平和の計画であると認識していることです。愛の父なる神は、愛する子どもたちに災いをもたらずのてなく、懲らしめは与えても、それがやがて平和の計画、摂理であつたことに気づかされます。そこで異郷の地であつても「家を建てて住み、園に果樹園を植えてその実を食べなさい。妻をめとり、息子、娘をもうけ、息子には嫁をとり、娘は嫁がせて、息子、娘を産ませるように。そちらで人口を増やし、減らしてはならない」(29・5、6)。したがっていかなる試練にあつてもあきらめない絶望してはならない、むしろ積極的に敢然と生き続けるのです。「今」の中で過去を材料に未来における希望を構築していくのです。

2 神と出会いなさい 実際、この宇宙でわたしたちは同じ場所に居続けているわけではないからです。回復の時が来るまで、「わたしを呼び求めよ、そうすれば、わたしはあなたに出会う」と神は約束されています(29・13、14)。七十年の時が満ちたならふたたび約束の地に連れ戻されるとしても、七十年後まで生きていた人はそう多くはおりませんでした。だからこそ彼らの子どもたち、孫たちに時代まで待たねばならなかったのです。しかし神は、「今」呼び求めるなら、会つてくださるというのです。これは、罪の中からあがない出してくれた十字架の業を経過し、復活されたイエスが、天の御座に

おられる父のもとに戻られ、命の霊としてわたしたちの内側に降つて来られた神の霊、手順を踏んでこられた三一の神の霊である内住の「聖霊」との出会いを体験することです。この御霊の臨在を通して、天の国の喜び、平安、希望を実感していきます。そればかりか天の国の實際を経験するようになり、奇蹟的な出来事に絶えず直面します。イエスは「父が内におり、父がわたしの内におられると、わたしの言うのを信じなさい、そうすれば「わたしの名によって願うことは何でもかなえてあげよう」と約束されたからです(ヨハ14・12、14)。手順を得て与えられる神の霊である「聖霊」との出会いによる偶然の一致のような導きや出会いこそ、希望の中身です。約束の地を離れ、異教世界、災いのような地に捕らわれ人として置かれている者にも、神は共にいてくださる、この約束こそ「怖れを吹きとばす」のです。

3 敵の都を祝福せよ イスラエルの民にとつてバビロンは敵の都でした。にもかかわらず神はその都の為に祈れと命じています。「わたしが、あなたたちを捕囚として送つた町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があつてこそ、あなたたちにも平安があるのだから」(29・7)。それは敵の平安のために祈ることでした。ロシアにとつてウクライナのゼレンスキーは悪魔であり、ウクライナにとつてプーチンは悪魔そのものです。もし神が、その大統領のいる都の平安のために祈れというのは受け入れられない要求だと、多くの人は思います。にもかかわらず神はそれを要求しているのです。

かつて日露戦争で、明治36年1月1日遂に日本は旅順要塞を攻撃し占領し、4日にロシアの敵将ステッセルと日本の乃木希典將軍は水師營で歴史的な会見を



戦い、先頭はユダ

神を信じるか信じないかの

路傍伝道ネットワーク
代表 菅野直基
聖書に出て来る「ユダ」は、「ブライ語の「イエフダー」で、「(神を)ほめたたえよ」という意味の人名です。ユダは、イスラエル人の祖であるヤ

しました。明治天皇は乃木に「相手の名誉を傷つけてはならない」と指示したこともあり、降伏してきたステッセル將軍に對して敬意をもって接し、サーベルを保持して会見に臨むことを告げたのです。この優遇こそ、敗者の立場を思い情けをかけた世界的称賛となった武士道精神でした。敵が憎いために戦ったのではない、彼は国民を愛し、守るために戦ったのです。自分も同じで二人の息子と戦いで失いながらも戦っている。息子たちもまた死ぬ場所を与えられたにすぎない。乃木は敵將の武勇を褒めたのです。帰国した敵將は、責任を取られ銃殺刑を宣告されました。これを聞いた乃木は、ロシア皇帝にすぐさま手紙を書き、將軍が死力を尽くして祖国のために戦ったと切々と訴え処刑の取り止めを訴えました。これにより減刑されシベリア流刑となりました。夫を遙か遠くに送られ、残された妻や家族のために乃木は自分が亡くなるまで生活費を送り続けたのです。イエスは「敵を愛せよ」とわたしたちに命じておられます。敵の都、サタンの支配する都の祝福のために祈れと神は命じています。サムライ魂の中にも聖書の真理が見られます。聖書を信じるすべてのクリスチャンたちが真の主の山に向かって祈り、みことばに聞き従う者になりたいものです。

コブの12人の息子のひとり、ユダ部族の祖です。ユダは、後にユダ部族となり、イスラエル南北分裂後の南王国(ユダ王国)を形成し、イスラエルの中核をなす部族となりました。

ある時、イスラエルが戦いに出る時、誰が最初に戦いに行くべきかを神に祈って聞くと、神は、「ユダだ」と言われました。「イスラエル人は立ち上がって、ベテルに上り、神に伺って言った。『私たちのため、だれが最初に上って行って、ベニヤミン族と戦うのでしょうか。』すると、主は仰せられた。『ユダが最初だ』(士師記20:18)。これは、実際に「ユダが先頭に出て行け!」ということと共に、神が導く戦いの先頭は、「賛美」だと教えているのではないのでしょうか。それは、人間の力による戦いではなく、神の戦いなのです。『それでモーセは民に言った。『恐れてはいけません。しっかりと立つて、きょう、あなたがたのために行なわれる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていないければならない』(出エジプト記14:13、14)。詩篇46篇10節には、「やめよ。私が神であることを知れ」とあります。この言葉は、安全に礼拝ができる室内で語られたものではありません。戦いの最前線において、「やめよ」と言われたのです。神の戦いは、武器による攻撃や防衛ではなく、「賛美」なのです。

私、年間200回以上路傍伝道をしていました。その多くは、路上で歌と音楽を奏でていました。音楽を通して聖書の福音を伝えていくという意味合いもありましたが、賛美を通して暗闇の勢力との霊的な戦いを行なっているのです。そして、賛美を通して、神を認めない自分と、神を認める自分との戦いをしていきます。神を認めないと、不安になります。



関西学院大学 李善恵

賀川先生の説教の中で、印象に残った内容があります。眼病に大変悩んでいた賀川先生は、使徒パウロの言葉「わたしの恵みはあなたに十分である(Ⅱコリント12:9)」に非常に共感していたようです。人間から見

恐れず、見る視点を変えよう!

我力で何かをしようとしてしまいます。しかし、神を認めるなら、神に委ねることになり、神が私たちの代わりに戦ってくださり、勝利することが出来ます。しかし、この戦いに負けると、神がおられるのに、神がいらないかのように考え、振る舞い、生きてしまうことになり、その最たる人物は、同じユダでも「イスカリオテの『ユダ』」です。「さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンがはいった」(ルカ22:3)。ユダは、イエス様の弟子でありながら、イエス様を信じていなかったのです。イスカリオテのユダの中でサタンが王となり、神となり、本当の神に反逆して立ち向かう「ユダ」となったのです。イスカリオテのユダは、銀貨30枚で買収され、ラビに對する尊敬と好意を表す「口づけ」という手段を用いて、イエス様の逮捕を手引きしました。悪魔は、良いものを悪いことに使わせます。あなたの才能を神に用いていただき、福音を語ることに使わせていただきますように。神は、「恐れず、語り続けよう!」とあなたに語られます。

ると、耐え難い苦痛であっても、見る視点によつては、苦難ではなくむしろ恵みだと言えることもあり、それほどに変わるということ。そこで、賀川先生は「第一に物を考えるのに、位置を考える。第二に時を考える。第三にどの方向を見るか。第四どんな心持で見るか。第五どんな手段を用いるか?同じ物を見るのでも、この五つによつて考が変わる。『苦難と恩寵』『雲の柱』1930年2月号、p.23。」と語りながら、苦痛がなければ神様を知ることができないし、苦痛があるからこそ人間が進歩することができると強調しています。

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は今でも注意を払わないといけないし、また、2022年2月24日に始まったロシアとウクライナとの戦争もまだ続いています。さらに、2023年2月6日に起きたトルコとシリアの国境部分のM7.8の大地震によつて五万人以上の尊い命が奪われました。このような出来事で、今までの私たちの生活すべてが一変し、先が見えない状況に置かれ、一層不安と恐怖の渦に巻き込まれたと言つても過言ではないでしょう。

このような時期に、我らはどうすればよろしいでしょうか。賀川先生の場合、1920年の戦後恐慌や1923年の関東大震災は、神様から「しっかりと」と言われていることであり、苦痛を受けることには意味があると述べています。暗い方ではなく、明るい方を見出そうとすることへの大切さを訴えているのです。つまり、我らが今直面している様々

な出来事や社会問題に対し、見る視点を変えたら、むしろ神様の深い恩寵を感じることができるといことです。とても厳しくて難しい状況であつたとしても、しっかりとする時期であると自覚したら、生きる希望が湧いて喜びと感謝で生きる日々になれるということです。苦しいときや悲しいとき、寂しいときでも、むしろありがたうございますと言える奇跡が起こりうるということです。これが神様の恵みです。

今年は、1923年に起きた関東大震災から100周年を迎える年です。あの時から今まで、我らは戦争や紛争、人災や天災で未来が保障されない時代に生きており、今後も恐怖と不安から簡単に逃げられないかもしれません。しかし、この時期だからこそ、見る視点を変えてみませんか。一歩踏み出す勇氣と努力をもって、後ろ向きではなく前向きで歩んでいきたいです。神様の恩寵を期待しながら・・・。

小さな命のために

辻岡健象牧師



書記 東海林昭雄

「小さな命を守る」の創立者であつた辻岡健象先生が二〇二二年一月一六日、天へと凱旋された。八九年の生涯であつた。同師は一九三三年に和歌

山県で生を受け、明治大学政治経済学部に進学、二〇歳の時にキリスト者となつた。その後有能なビジネスマンとして活躍していたが、ある日夢を見た。それは天国の入り口で、それまで自分のために生きてきたことを断罪されているという夢であつたという。しかも三度も同じ夢を見、このことは主よりの召命と確信し、献身したい旨を妻に話すと、経済的な保証がまったく無い神学生になることに青さめ、クリスチャンであつた親族一同も反対したが聖書神学舎に入学。卒業後二〇数年、福音自由教会の牧師として仕えるが、闇に葬られる小さな命の存在に心を痛め、一九八四年に「小さな命を守る会」を創立。様々な事情で中絶を考える母親を説得し、養子縁組を斡旋し赤ちゃんを助ける活動に奔走した。その働きの大きな原動力となつた出会いがあつた。産婦人科医の菊田昇医師との出会いであつた。「中絶は殺人ではないか」と尋ねる辻岡牧師の問いかけに菊田医師は心を動かされ、その後回心してキリスト者になり、菊田医師らの働きによって一九八八年に「特別養子制度」が施行された。

私にとって辻岡先生は恩人でもある。

三五年程前、当時神学生であつたが友人より深刻な相談を受けた。知り合いの高校生が妊娠し、産み月も間近という。十代の二人は生活力は無く、両家とも崩壊状態であるという。場合によっては自分自身がこの子を受け入れざるを得ないかと追ひ詰められた時に思いついたのが、辻岡先生であつた。相談すると早速対応してくださり出産は北本福音診療所

で無料で出産、その後生まれた子は、あるクリスチャンホームに養子として受け入れられた。五年程前に夏期聖修会に出席された辻岡先生にそのことを話すと、「あの子は親孝行な良い子に育ちましたよ」とのことであつた。酪農家の跡継ぎになるとのことであつた。一人の貴き命が生かされ、そしてキリストに在りて救われ、証し者として用いられていることを感謝し喜ぶことができた。辻岡先生は、まさに一粒の麦として実を結ばれたご生涯であつた。先生の遺志を真摯に受け止めたい。

松沢資料館の記憶

松沢資料館の記憶はただ過去の重ね生まれてくるわけではありません。むしろ自身の内部に懐かしき人々の伴って立ち現われて来ます。

資料館の中に旧松沢教会の礼拝堂を組み込み資料として保存する事にもなりました。礼拝堂には、賀川先生の下絵によりイエスと少年を題材にした円形のステンドグラスがはめ込まれ淡い光を照射しています。それが賀川豊彦先生との邂逅を想起させる資料館の原風景のようでもあります。

打ちっぱなしのコンクリートの質感の建築物の資料館の外階段を上がつて正面入口の右手奥に小部屋がありますが、そこはイエスの友会の部屋として設計段階では告げられていたのですが実現はしませんでした。イエスの友会専用の机は隣接の大部屋のなかに置かれ専属職員一人がそこに詰めて火の柱の作成や発送、事務をしていました。

なぜ夢のようなイエスの友会の部屋構想が起きたかと言いますと、その領域相当分が、イエスの友会会館を売却した際、その代価を財団法人雲柱社に預けていた経緯があるからだと言ふのです。衆知のようにイエスの友会法人格のない団体で、売却した財産は財団法人雲柱社に預けたと三木弘さん、藤原英知さん、石井七郎さん、工藤三代松さん、工藤三郎さん、花盛勲一さん、金子益雄さんたちが異口同音にそれを語り伝えたからです。いわば口伝伝承です。

本来、雲柱社とイエスの友会とは同じ人たちが維持されており、賀川豊彦先生が生きていた1960年までは、雲柱社もイエスの友会も新宿伝道所も一心同体でした。そのイエスの友会、新宿にあり、新宿伝道所と一体で一階の八畳一間で礼拝や集会をし、二階に六畳二間に宿泊施設を設け「イエスの友会ロッジ」と呼んでいました。

資料館建築募金で、その預けていた財産もまた建築費に充当され、消え去り、イエスの友会専用室構想は、合意文書もなく、いつしか記憶だけ残ることになったのです。逆にイエスの友会、資料館に家賃を毎月払い、続けました。私がイエスの友会の会長に就任するや最初になした仕事は、このあいまいな関係を断ち切り、イエスの友会事務所を資料館の外に置くことでした。イエスの友会の財産は放棄し、事務所は浜松に移転することを決議し、一件落着きました。

他者の記憶から端を発したこの資料館とイエスと友会との関係は、その一端を私に植え付けることの、経験と想像と時間との媒介によって現実とかわわってき

ましたが、かなたに溶け込んでいた過去の世界の現実らしきものが、遠くから予兆と懐かしさを伴って歩いてくる未来との交差点となっておりました。

記憶は過去を再現するだけでなく現在という境界を再構築して、未来のうえにも投影されていきます。よって「受けるよりも与えることは幸いなり」との主の言葉に101年目を迎えたイエスの友会の時間全体を委ねることを宣言するのです。資料館開設40周年の歴史は光の記憶の歴史です。栄光に輝く賀川豊彦記念館が存続することをお祈り致します。

(イエスの友会会長 鈴木武仁・「賀川豊彦記念松沢資料館40周年記念史」2022年10月1日発行 12頁より転載)

第2回 春期聖修会 報告



2023年2月20日から21日、湯河原千代田荘にて春期聖修会が開催されました。従来の中央委員会から拡大したものです。

主講師は、佐々木炎さんで、『キリスト教社会奉仕』と題してNPO法人 ホッとスペース中原の教会の牧師でありながら、福祉事業を展開している実際の働きをご紹介くださいました。佐々木さんの人生において、良いモデルとなる出会いがあり、良い影響を受けてこられたようです。若き日には、長谷川保の聖隷福

祉事業団での学ぶ機会があったことを証してくださいました。今の時代の課題に取り組み姿から、学ばせていただいた感謝でした。締めくくりに、菅野直基さんのリードでの湯河原駅的路傍伝道で、福音を語り、賛美をして、聖書トラクトを配っていました。最高齢くらいの参加者の方も、踊りながら賛美しており、主が宣教の力を与えてくださることを実感させていただきました。ハレルヤ！（事務局 高島）

2023年度 第98回夏期聖修会スケジュール(変更の可能性あり)

テーマ 綱領『世界平和のために努力すること』

聖書…マタイ5…9平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

日時…2023年7月24日(月)～26日(水)

会場…YMCA 東山荘 4120024 静岡県御殿場市東山荘

7月24日(月)

第1日目

13:00 受付開始

14:00～15:00 開会礼拝

奨励…小野島正彰

司会…東海林昭雄

15:30～17:00 基調講演「賀川

イズムとアジアの償いの業」(仮)

講師… 大野克美

17:30～18:30 夕食 参加者より一言

19:00～20:30 賛美と証のとき

7月25日(第2日目)



7:00～7:40 早天集会 奨励「主の証人として」 佃和男 司会…及川健治 8:00～9:00 朝食 参加者より一言

部屋の荷物の片づけ移動

10:00～12:00 講演「聖書に立つ

「平和」(仮) 講師…渡部信

12:00～13:00 昼食 ・各支部報告

13:30～15:00 「東南アジア文化

友好協会の働きについて」(仮)

15:30～17:00 イエスの友会中央

委員会(大会) 司会…事務局

17:30～18:30 夕食 参加者より一言

19:00～20:30 賛美集会

7月26日(水第3日目)

7:00～7:40 早天集会

8:00～9:00 朝食 参加者より一言

部屋の荷物の片づけ移動

10:00～11:20 活動報告会

11:30～12:00 司会…事務局

12:00～13:00 閉会礼拝

奨励…脇田真一 司会…金子信一

12:00～13:00 昼食 片付け・解散

・参加費 会員 全日3000円 1日1000円

別途宿泊費見込 詳細後日

宿泊費・食費実費

申込締切日 2023年7月9日(日)申込

みは次号六月の火の柱の振込用紙をもって

行う。

【二〇二二年度会計報告】

《二〇二二年十二月以降二〇二三年二月迄の状況》

◎維持費(二万二千円)二名(鈴木諭香子、長谷川勝義)

◎会費(三千円)十五名(町頭良行、岩倉正美、足立克己、中満恵、今関公雄、大野剛、木村忠雄、高橋史弘、高島リリアン、染谷武男、鈴木諭香子、渡辺裕子、長谷川勝義、浅香イサク、和氣一樹)

◎感謝献金六名(町頭良行、梅村貞造、藤本喜代枝、及川健治、高島史弘、柳フオルグレス)

◎クリスマス献金四名(鈴木武仁、木下宣世、中満恵、梅村貞二)

◎購読料(千五百円)二名(渡辺賢次、及川健治) ◎登録料(五百円)二名(渡辺裕子、和氣一樹) ◎百周年記念特別献金一名(岩倉正美) ◆会費納入と献金のお祝い◆

尊い献金と会費等でイエスの友会の活動をお支え下さり、イエス様にあつて感謝いたします。

▽たくさんの方から会費や献金をいただきました。感謝します。引き続き、各事業活動の費用のための会費や献金をお願いします。

会費、献金、維持費、購読料等の振込先は、次のとおりです。

▼郵便振替口座 「〇〇一七〇一七四九五八六」 加入者名 「イエスの友会本部」

いつもご支援を心から感謝申し上げます

(会計担当 小野島正彰)

会員報告

新入会員 2023.2.21 渡辺祐子、染谷武男、和氣一樹

登録会員 2023.3.20 朴 ホンスン

勢喜 光(せきひかる) 推薦 脇田真一

イエスの友会 大阪支部例会報告 2023年3月20日(月)午前8時15分から

大阪クリスチャンセンターにて 講師…大野剛さん 応援…高島史弘、高島リリアン

支部長の脇田真一さん司会。24名の方々が、ご参加くださり、その中から2名の方が新規に登録会員になってくださいました。(事務局 高島)

「火の柱」第734号

発行人 鈴木武仁

発行所 イエスの友会本部

発行日 2023年3月31日

本部事務局

441-8016 愛知県豊橋市弥生町西豊和4-7 高島史弘(イエスの友会 事務局局長)

携帯 06066465160

メール takashima633@japan.email.ne.jp

郵便振込加算名 イエスの友会本部

口座番号 001707401586

火の柱編集 長谷川勝義

火の柱編集メール先 hupc58@xi.cominfo.jp

〒440-0026 愛知県豊橋市多米西町2-20-12

電話・FAX 0563261-4822